

令和4年度 出資団体監査の結果（指摘・意見）に基づく措置状況等の報告

- 1 監査の種類 出資団体監査
 2 監査対象 四日市あすなろう鉄道株式会社
 都市整備部都市計画課（出資に関する事務の所管所属）
 3 監査実施期間 令和5年1月16日

【四日市あすなろう鉄道株式会社】

指 摘

特になし

意 見

1 想定されるリスクからの着眼点に着目して行った監査結果

意 見	措置（具体的内容）・対応状況
(4) 事業継続性のリスク 今後、少子化の進行による通学利用者の減少等により、損益の悪化が見込まれる。例えば、軌道における太陽光発電を導入して収入を得たりするなど、思い切った発想のもと、現在以上に収入確保の方策について検討すること。	【 検討中 】 令和 5年 8月31日 既存の鉄道収入だけでなく、新規事業の可能性についても採算性を考慮しながら、検討を続けていく。
	【 継続努力 】 令和 6年 2月29日 四日市商工会議所及び旅行会社と連携して車庫見学ツアーを実施（令和6年2月10日実施「四日市あすなろう鉄道ツアー」）する等、新たな企画で収入確保に取り組んでいる。

2 3E（経済性、効率性、有効性）等の視点からの着眼点に着目して行った監査結果

意 見	措置（具体的内容）・対応状況
効果的な利用促進策について【有効性の視点】 ア 沿線に高等学校が複数立地し、同校に通学する学生にとっては利便性の高い鉄道である。例年、「高校入試応援キャンペーン」実施により、入学試験当日の受験生の往復運賃を無料とし、報道等によるPR効果により利用促進を図っており、また、令和3年にはICカードシステムの導入を行うなど、学生を含めた利用者の利便性の向上に努めている。立地条件を活かし、高等学校との連携をさらに強化して学生の意見も取り入れながら、今後も様々な形で利用促進を図り、実績につなげること。	【 継続努力 】 令和 5年 8月31日 通学定期については、1箇年通学定期乗車券の積極的なPRが功を奏し、利用者が大幅に伸びているため、今後も沿線の高等学校等と連携を取りながら、さらなる利用促進に努めていく。
	【 措置済 】 令和 6年 2月29日 通学定期については、海星高校の男女共学化等の影響や1箇年通学定期乗車券の積極的なPRにより、利用者数が伸びている。 令和5年度は、四日市農芸高校の生徒が考案したご当地パンの配布（令和6年1月27日実施「Café列車」）や、海星高校の生徒による伊勢茶の振る舞い（令和6年2月11日実施「四日市あすなろう鉄道ロゲイニング」）等、学生を巻き込んだ企画を実施した。 通学定期利用者数 令和4年度（4月～1月）：835千人 令和5年度（4月～1月）：867千人 増加数：32千人

<p>イ 鉄道グッズの販売は、PR効果が高いと考えられるので、駅やイベントでの販売以外に、四日市観光協会と連携するなどにより、効果の見込める様々な場所で販売を行い、事業のPRに努めること。</p>	<p>【 検討中 】 令和 5年 8月31日 鉄道グッズについては、元々利益率が低いため、手数料が必要となる委託販売については検討が必要だが、他社等が主催する鉄道イベントでの販売については今後も積極的に実施し、PRに努めていきたいと考えている。</p>
	<p>【 継続努力 】 令和 6年 2月29日 鉄道グッズについては、鉄道むすめ「追分あすなろ」の取扱アイテムの拡充を図り、従来の鉄道ファン以外の顧客層にもPRに努めている。</p>

【都市整備部都市計画課】

指 摘

特になし

意 見

1 想定されるリスクからの着眼点に着目して行った監査結果

意 見	措置（具体的内容）・対応状況
<p>(1) 出資団体の指導監督が適切に行われないリスク 利用者増加を目的に、当会社とともに、沿線地域と連携したイベントを開催するなどの手立てを講じることを検討するとともに、グッズ販売についても、四日市市観光協会や全市的なイベントでも扱えるような支援の方策を考えるなど、効率性・経済性の向上に努めること。</p>	<p>【 継続努力 】 令和 5年 8月31日 令和元年度より、全国でも珍しいナローゲージの鉄道として、市の観光資源となっている四日市あすなろう鉄道を活用した企画の提案を募り、市民主体によるまちづくり活動の推進を図っている。 上記の他にも、鉄道まつりや赤堀ふれあいまつりといったイベント等に参加し、利用者の増加を図っている。 今後も、引き続き、第二種鉄道事業者と連携して、効率性・経済性の向上に努めていく。</p>
	<p>【 措置済 】 令和 6年 2月29日 令和元年度より、全国でも珍しいナローゲージの鉄道として、市の観光資源となっている四日市あすなろう鉄道を活用した企画の提案を募り、市民主体によるまちづくり活動の推進を図っている。 令和5年度も四日市あすなろう鉄道を活用した企画を募り、「駅ピアノ」や「四日市あすなろう鉄道ロゲイニング」等を実施した。 上記の他にも、令和5年10月8日に開催された「鉄道の日記念イベント」、10月22日に開催された「赤堀ふれあいまつり」や11月18、19日に開催された「東海・北陸 B-1グランプリ」に参加し、利用者の増加を図った。 今後も、引き続き、第二種鉄道事業者と連携して、効率性・経済性の向上に努めていく。</p>

2 3 E (経済性、効率性、有効性)等の視点からの着眼点に着目して行った監査結果

意見	措置(具体的内容)・対応状況
<p>① 今後の財源について【有効性の視点】 第三種鉄道事業者である本市の事業費の財源は、国・県からの補助金及び一般財源のほか、内部・八王子線基金の取崩しにより賄っている。同基金は、当初近鉄からの拠出金8億円でスタートし、運行事業開始から令和3年度までの当会社から本市への寄附積立て額3億6,000万円、同基金の取崩し額8億5,000万円となっており、同基金の積立残高は、計画していたとはいえ当初から減少し、令和3年度末時点で3億1,000万円となっている。事業の継続を前提とした今後の財源確保の計画について検討していくこと。</p>	<p>【継続努力】 令和5年8月31日 施設の維持・更新に係る費用は、引き続き、国・県に補助金要望をしていく他、利用促進等の実施により、利用者の確保を図っていく。 今後も、第二種鉄道事業者と連携して、財源確保について検討していく。</p> <p>【措置済】 令和6年2月29日 施設の維持・更新に係る費用について、令和5年度もこれまでと同様、国・県の補助金を活用し実施しており、令和6年度の事業についても、補助金要望を提出している。 また、令和5年度も様々な利用促進を行い、利用者の確保を図った。 今後も、第二種鉄道事業者と連携して、財源確保に努めていく。</p>
<p>② 財務書類の作成について【有効性の視点】 令和元年度出資団体監査における監査結果として、当会社に対し、「第二種鉄道事業者である当会社と第三種鉄道事業者である本市の両事業者の財務状況を合算した連結の貸借対照表及び損益計算書の作成について検討すること。」との意見を提出しているが、当会社は、未だに当該書類の作成について検討中であり、作成できていない状況である。 一方、本市の会計は、現在、法規に基づく決算書類以外に、財政経営部が、国の統一した基準に基づく公会計による財務諸表を作成し、公表している。そのような状況の中、市民に鉄道事業全体の経営状況を示すためにも、都市整備部が主体となり、財政経営部と協議し、両事業者の財務状況を合算した連結の財務書類の作成に取り組むこと。</p>	<p>【検討中】 令和5年8月31日 連結の財務書類の作成について、有効性を含め、会計専門監と相談の上、第二種鉄道事業者である四日市あすなろう鉄道㈱と引き続き検討していく。</p> <p>【検討中】 令和6年2月29日 連結の財務書類の作成について、有効性を含め、関係部署に相談し、連結の財務書類を作成することは難しいといった意見もあるが、引き続き、第二種鉄道事業者である四日市あすなろう鉄道㈱と検討していく。</p>
<p>③ 今後の鉄道事業計画について【有効性の視点】 現在の四日市あすなろう鉄道は、全国的にも珍しいナローゲージを看板として、全国の鉄道愛好家も利用促進の対象としている。しかし、今後は、当会社の収益悪化により本市からの損失相当額の支出という事態も想定される。四日市あすなろう鉄道を市民の生活に必要不可欠で維持すべき路線と考えるならば、今後整備が見込まれるJR四日市駅や、四日市港千歳地区との連携等、事業継続の観点から発想を転換し、路線維持の方策を検討すること。</p>	<p>【検討中】 令和5年8月31日 四日市あすなろう鉄道の沿線には、多くの高等学校があることから、通学や通勤に必要不可欠であり、維持すべき路線である。 そのため、第二種鉄道事業者と協力して、路線維持に努めるとともに、今後整備が見込まれる近鉄四日市駅前等との連携を検討していく。</p> <p>【継続努力】 令和6年2月29日 四日市あすなろう鉄道の沿線には、多くの高等学校があることから、通学や通勤に必要不可欠であり、維持すべき路線である。 そのため、第二種鉄道事業者と協力して、路線維持に努めるとともに、今後整備が見込まれるJR四日市駅や、現在、整備が進んでいる近鉄四日市駅前等との連携を検討し、路線維持の方策を探っていく。</p>

④ SNSの活用について【有効性の視点】

Instagram及びフェイスブックを開設しているが、Instagramの更新がしばらくなされていない。SNSによりあすなろう鉄道に関心を寄せ、つながっている層やファンに対し、様々なツールを積極的に活用し、効果的にイベントや企画のPRを行うこと。

【措置済】 令和 5年 1月17日

現在、四日市あすなろう鉄道のイベントや企画等をInstagram及びフェイスブックを用いて、情報発信を行っており、令和5年1月17日にInstagramを更新した。

今後も引き続き、SNSを活用して、四日市あすなろう鉄道のPRを行っていく。